

## 生薬栽培に係わる技術者育成研修会開催

10月10・11日の2日間、高崎市において「薬用作物の栽培技術に関する研修会」が開催された。

農水省の薬用作物産地支援体制整備事業により

全国農業改良普及支援協会と日漢協が「薬用作物産地支援協議会」を設置し、薬用作物の栽培技術に関する研修を実施しているもので、今年度で2年目となる。

全国7カ所で開催予定であり、八雲町(北海道)、高浜町(福井県)、盛岡市(岩手県)に続き本年度4回目の開催であった。【[研修会開催について](#)】

薬用作物の着実な産地化の取り組みを促進する一環として、現場における栽培技術の指導体制の確立を支援するため、普及指導員等を対象に講義と圃場における現地研修が行われた。

群馬県「利根沼田農業協同組合」のトウキ圃場において、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価などについて、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深めた。

その後「薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について」と題し、日漢協の生薬国内生産検討班の高林耕平班員による講義が行われた。

講義は、日本漢方生薬製剤協会の紹介から始まり、漢方医学の歴史、漢方製剤市場の現状、

そして薬用植物・生薬の基礎知識の説明が行われた。

さらに、原料生薬の使用量および中国産の価格指数の推移など現状の説明から、昨年まとめられた「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会」の提言書内容の説明まで及んだ。

最後に実需者である企業のニーズと今後の課題が提示された。

盛りだくさんの講義にもかかわらず、参加者は熱心に聴講していた。

2日目の11日は、近隣地域(長野県)における薬用作物の栽培化における事例が紹介された。

生薬栽培に係わる、技術者育成の課題解決に向けた取り組みの進行がうかがわれる、充実した二日間の研修会であった。



【高林 耕平 班員】